

起ラナイコトデ或官衙等ニ於テ稀ニ生ズル用向デアル、又箇人デ一地方ノ「フローラ」ヲ調ベルト言ハル、ナラバソレモ甚ダ賀スベキコトデアルガ希クハ短兵急ニ片附ケヤウトシテハイケナイ、ユックリト其地方ノ植物ヲ觀察シ異同ヲ辯ジ假令ヘ其學名和名ハ不明デモ甲ト乙トノ區別ヲ他人ニモ説明デキル程度ニナツテカラ愈々其正式ノ名稱ヲ尋ネテモ決シテ遲クハナイ、否ソウスルノガ本當デアル、況ヤ郵便切手「マツチ」ノ「レッテル」流ニ多數ヲ競ハシガ爲ノ鑑定ノ如キニ至テハ小生ナラズトモ誰レデモ真平御免ヲ蒙ルハ必定デアル、然ルニ世間ノ實際ヲ見ルト「レッテル」蒐集家流ガ多イノデ遺憾デアル、其證據ニハ同一ノ送品中ハ勿論、次モ其次モ又其次モ同一品ガ入テ居ル、ソレモ多少形態ヲ異ニスルモノトカ或ハ着生基物ヲ異ニスルモノトカ云フノナラマダシモ一見極メテ容易ニ區別ガツクモノデアルニカ、ハラズ反覆送テ來ラル、ニ於テハ如何ニ柔順ナル鑑定者モ少々考ヘサセラレル、即此採集家ハホントニ植物ヲ觀察スル人デナクシテ「レッテル」ヲ集メル人デアル、ソンナラ何モ時間ヲ費シテ検査スル必要ハナカラウト云フコトニナル、小生ノ如キ未熟者ガ無イ袖ヲ振テ鑑定ニ應ジツツアルノモ吾邦各地ニ正確ナル觀察者ガ一人デモ增至云フコトヲ目標トシテ居ルノデ「レッテル」蒐集家ノ様ノ下ノ力持ハイヤデゴザル、中ニハ自分ハ何何ノ部門ハ専門ニヤル興味ハナイ然シ他ノ採集ノ序ニ採タカラ送ルト云テ下サル方モアル而モ實ニ立派ナ標本ニ接スル、コレハ難有ク頂戴シテ居ル、ソシテ直ニ返事スル義務ガナクモ與見ヲ述べ御禮ノ代リトシテ居ル、甚ダ吾儘勝手ノ様デハアルガ返事ノ義務ヲ生ジナイ御寄送品、言ヒ換レバ吾邦植物ノ分布上參考トセヨトノ贈物デアレバ多少ノ不完全品デモ難有ク頂戴スルガ鑑定ヲ乞ハレタ品ニ依頼者ノ誠意（具體的ニ言ヘバ標本ノ完全ト十分ノ量ト採集家自身ノ熱心ナル觀察）ガナイトナルト果シテ鑑定ヲスルノガヨイノダカ、シナクテモヨイノダカ、分ラナクナツテシマウ

どくうつぎ

どくうつぎ (*Coriaria japonica* A. GRAY.)

藥學博士 刘米達大夫

内務省ノ統計ニヨレバ有毒植物ニヨル中毒件數ハ毎年平均三百件、其内約六割ハ毒菌ニヨル中毒、コレニ次デどくうつぎノ中毒ガ最モ多ク總數ノ約一割、即テ三十件内外デアル、尤モコレハ全國府縣ノ衛生課ニ報告サレタモノノ件數デアツテ實數ハコレヨリ遙カニ多カラウト思フ、どくうつぎ中毒ノ原因ハ主トシテ其ノ美シキ果實ニアツテ小兒ガ其ノ毒タルヲ知ラズシテ食フニ由ルガ木部ニモ亦毒アルコトハ本植物ニみそやかん（味噌燒カズノ意）ノ方言アルコトニヨリテモ知ラレル、又いちらぐころし、ねずみころし等ノ方言モアル、西洋ニハ *Coriaria myrtifolia* L. ガアツテ有毒植物トシテヨク知ラレテ居ル、ソノ皮部ハ「タンニン」ヲ多量ニ含有スル爲メ南歐デハ染料ニ用ヒル地方ガアル又古クハ鞣皮料ニ供シタトイフ即チ屬名ハ *corium* (革) ニ發スル、分類學上どくうつぎ科ニ近キうるし科、かへで科、どちらの科等ハ概シテ「タンニン」ニ富ンデ居ル、リュージーランドリハ *Coriaria tutu* LINDSAY, C *sarmentosa* FORSTER, C *thymifolia* HUMB. ET BONPL.

とくらうりや

たいわんどくうつぎ (*Coriaria intermedia* MATSUM.)

(熊野熊夫氏撮影)

等アリテヨホ  
ド繁茂シテ居  
ルモノト見エ  
ニヨツテ毒死  
家畜ガ屢々之  
スルトイフ、  
同地デハ本屬  
植物ヲ土名デ  
Tutuト稱シ  
コレニ由テ毒  
死スルコトヲ  
英語デ tutut-  
eド動詞ニ用  
ヒテアル程ダ  
カラ餘程屢々  
ヤラレルモノ  
ラシイ、ペル  
I C. rusci-  
folia L. メキ

とくらひや



Coriaria sarmentosa Forst.

(Photo by WM. C. DAVIES, Cawthron Institute, Nelson, New Zealand.)

シロノ *C. atropurpurea* DC. も劇毒ニア  
 ル、支那ニハ本屬デ果實ノ非常ニ美シ  
 イ種ガ有ルトイフコトヲ聞イタガ學名  
 ヲ御教示ニアヅカリ度イ、臺灣ニハた  
 しわんべくわ C. intermedia MA-  
 TSUM. トありたんじくわ C. sum-  
 nicola HAYATA トガ有ルガアマリ中毒  
 ヲ聞カナイ然シ無論毒ニ違ヒ無イ  
 本植物ノ有毒成分ニ就テハ東京帝大、  
 理學部ノ植物學教室ニ於テ木下廣野  
 氏、内務省衛生試驗所ニ於テ小生ト佐  
 藤輝夫君先年來研究ヲ續ケテ居リ大分  
 明瞭ニナツテ來タ、其結果ニヨレバ莖  
 葉ト果實トハ有毒成分ガ全然別デアツ  
 テ莖ト葉ニハ「コリアミルチン」Coria-  
 mytin  $C_{15}H_{28}O_5$ 、果實中ニハ「クチナ」  
 Tutin  $C_{12}H_{14}O_5$ トイフ結晶性ノ有毒成  
 分ヲ含有スル、「コリアミルチン」ハ一  
 八六三年 RIBAN ガ歐洲ノ *C. myrtifolia*



(左) しなのき一種 *Tilia platyphyllea*. (右) いちゅう *Ginkgo biloba*.  
(New Zealand の Nelson に於て生育セルモノナデ W.M. C. DAVIES 氏撮影)

L. 中ニ發見シタ成分「ツチン」ハ一九〇一年 EASTERFIELD, ASTON 両氏ガ イシラード 産 *C. sarmientosa* FORSTER, *C. angustifolia* 及 u *C. thymifolia* HUMB. ER BONPL. 中ニ發見シタ成分デアル、本邦ノどくうつぎ中ニ歐洲ト濠洲ノ同屬植物ノ毒成分ヲ併有スルコトハ興味アル事實デアル、前掲 *C. sarmientosa* FORSTER ノ寫真ハ比較ノ必要上 EASTERFIELD 氏ニ乞フテ「ツチン」ノ結晶〇・五瓦ヲ送ッテ貰ヒ其返禮旁々どくうつぎノ寫真、腊葉及ビ種子ヲ送ッタラ又其返禮ニ送テ來タモノデアル、同時ニ同地植物園ニ生育スルいちやうのきノ寫真(上掲)ヲ添ヘテ、いちやうノ母國ニ於ル生育ノ状態ヲ見度イト書イテ來タカラ本誌第六卷一號ヲ送ッテ置イタ、雄大ナ乳いちやうノ寫真ニハ少ナカラズ驚イテ居ルダラウ

「コリアミルテン」ト「ツチン」トハ動物ニ對スル毒性非常ニ似テ居リ毒力ハ前者ノ方ガ著ク強イ、どくゼリノ  
 「シクトキシン」・けまノ「シナンコトキシン」等ト共ニ痙攣毒ニ屬シ其中毒症狀ハ最初呼吸興奮ニ次デ強イ痙  
 攣ヲ發シ遂ニ窒息ニヨリテ死ニ至ル、此ノ急性中毒ニハ阿片劑ガ比較的ヨク奏効スル、「ツチン」ハどくうつぎ  
 ニアリテハ主トシテ種子中(含量約〇・一%)ニ存スルガ木下氏ノ實驗ニヨレバ果實ノ外面ヲ包ム多漿ナル宿存  
 性花瓣(即テ淡紅色ノ美シイ部分)ニモ少量ヲ含有スルカラ果汁ヲ嚥下スルダケデモ危險デアル、ニユージョラ  
 ノドノ土人ハ *C. sarmientosa* FORSTER ノ熟果ヲ搾リテ得タル汁液ヲ醸酵セシメ酒ヲ造ツテ飲ムソウデアルガ成  
 熟及ビ醸酵ニヨリ「ツチン」ガ減少シ又ハ消失スルトシテモ危險ナ飲料デアル

## ○今後ハ *japonica, koreana, formosana* 等ノ語ヲ用キテノ 命名ヲ全廢セヨ

池 田 政 晴

日本ノ植物志ヲ見通シタ所 *japonica* 等ノ種名ガ甚ダ多イ、コレヲ全廢セヨト言フノガ私、否、日本人全體ノ主  
 張デアル、既ニ定マツタモノハ何トモ致シ難イトシテ今後ノ命名ニハ斷然之ヲ捨テ、*nipponica* 等ノ種名ヲ大  
 イニ用ヒ度イト思フ

今更憲法第一條ヲ引張リ出スマデモ無ク我國ガ日本 *Nippon* デアル事ハ分リ切ツテ居ル、コレノ語尾ヲ變化シテ  
 正シク *nipponica* 等ノ種名ヲ用フベキデ *japonica* 等ノ變ナ訛ハ今日限り永久ニ止メルベキデアル、*Japon* ハ語  
 源ハ勿論日本 *Nippon* ニアルガマルコボーロ等ニヨツテ轉々誤ツテ外國ヘ傳ヘラレタノデアル、ソレ故維新前後  
 我國ニ來タ外人或ハ來ナクテモ日本產ノ新種ヲ發見スルト先 *japonica* 等ノ名ヲ好ンデ付ケタ  
 併シ今日ノ日本人ガソレニ倣フ必要ハ少シモ無イ即 *Japon* トカ *Japan* トカ云フ語ハ何モカモ外人ノ意ヲ迎ヘテ